

## 移川子之藏君著「臺灣高砂族系統所屬の研究」に對する

## 授賞審査要旨

本研究は本篇及び資料篇の二冊より成り、主として口碑傳説を根據とし傍ら風俗慣習を材料とし且つ間々支那及び和蘭の文獻を利用して臺灣高砂族の九種族の名稱、分類、分布地域、系統所屬、移動方向、發源地故地、本源出自等より部族、氏族、蕃社の組織、系譜、來歴、移動等に涉りて極めて周密なる考察を下したるものにして、且つ屢々蕃族の言語上の考證にも及びて剴切なる推論を與へたる點少しとせず。

第一冊本篇は緒言及び本論九章に分れ、每章各種族の系統所屬に關する周到なる考察を下し、附するに各種の移動地圖を以てし、又必要に應じて各地域の風土、民族、人物等の寫眞を加へ、分布一覽表、系統別分布移動地圖等細密なる圖表を添へたり。著者は豫め緒言中の六節に於て本論の概括を試みたるが、この概論は處々注目すべき考察に富めりとなす。即ち著者は先づ諸民族原始状態を探究する典據としての東西古文獻の不完全なるを指摘しつゝ、高砂族の口碑傳承が種族の發源乃至離合聚散の徑路を推考するにつきて絶好なる資料たる所以を説き、次に種族の系譜の傳承に關する重要な意義を數ヶ條に分ちて詮索したる後、血族團體と地域團體との變化に論及して、部族、氏族、個人等の

名稱の考察を試みたり。著者は是に至りて種族移動分散以前の中心地、發源地、乃至故地に關する概観を下し、更に一步を進めて高砂諸種族にありては高山發源の傳説と平地海岸發源の傳説と異島渡來の傳説との三種あることを討究して、高砂族の海外渡來説を證明せんとし、又渡來時期前後新古の差違を示したり。著者は之に次いで尙ほ高砂族に高山蕃と平地蕃との二大別を生じたる二三の原因を探尋したる後、最後に高砂族の移動には、故地に對して遠心的傾向をとる場合と、求心的傾向をとる場合との相反する二傾向の存在することを認めて、其の遠心的移動には七種の大小諸原因のあるべきことを指示し、其の求心的移動には重要な宗教的原因あることを説明したり。此等の論證に當りて著者は専ら口碑傳説に依據し、傍ら舊慣故俗を調査して以て人種土俗學的觀察を盡くしたる上に宗教學的及び言語學的考察を試みたる所あり。

本書の取扱ひたる民族の範圍は、高砂族九種を主としたものなれども、此等所謂生蕃の外、之と所謂熟蕃との關係をも調査し、又支那民族との交渉をも考查したることは固より言ふを俟たず。而して高砂族殊に南方の海岸島嶼に住する諸種族を口碑上より見て、臺灣以南の諸島より渡來せるものなることを指示して、著者が高砂族と臺外南方民族との連絡を證明せんとしたるの意圖は十分に窺ふに足るべし。

本書の第二冊を成せる資料篇は九種族の系譜の明細表を主としたるものにして、添ふるに系統分布

地圖四葉と蕃社系統表二葉とを以てせり。系譜表は九種族に涉りて部族、氏族、蕃社等の分脈系統を系圖的なる形に調製して明細を極めたるものにして、且つ一々採録の年月及び人名と口述者通譯者の人名とを註記して以て所依資料の確實を示したり。

今之を通觀するに、著者が諸種の艱難を冒しつゝ、實地の調査探尋を試み且つ衆多協力の結果と専門學徒戮力の成績とを利用し、以て複雜極りなき資料を能く驅使し、能く咀嚼し、斯くて最も困難なる人種移動に關する大問題の解決に向ひて邁進し、本書に於て多大なる業績を擧げ得たるは人種土俗學上の一大成果なりと稱すべく、延いて餘力を言語研究の上に及ぼして亦少からざる効果を收めたるは、彼れ此れ著者の努力の異常なると概括力の非凡なるを察せしむるに足るべし。概言するに著者が人種學の上に於て民族移動の適切なる實例を明示し、土俗學の上に於て口碑傳説の分解綜合につきて一適例を提供し、以て此等の學問の進歩に貢獻せる所尠少なからざるは學界の認めざるを得ざる所となす。唯著者の論證中、往々古今東西の諸民族移動の類例に關する比較的研究所が不十分なるやの感あるを惜む。然りと雖も、本篇の論述に當りて著者は常に輕卒なる臆斷を避け、絶えず淺薄なる對比を慎みつゝ、尙ほ將來の調査に期し今後の論究に俟ちて、此の研究を大成せんとしたるは穩健堅實なる好學の態度たるを失はざるなり。